

伊勢・横輪町活性化委員会

東海農政局長賞に

観光開発、景観保全に貢献

地元住民でつくる伊勢市の横輪町活性化委員会が、農山漁村における地域のむらづくり活動を評価する「豊かなむらづくり全国表彰事業」（農林水産省、財団法人日本農林漁業振興会共催）の中で、地域の活性化に貢献したとして東海農政局長賞を獲得した。

（大槻亨子）

豊かなむらづくり表彰事業

東海三県を対象とした地区ブロックで、各県から推薦された三団体が、自主的な努力と創意工夫、合意形成の状況などで審査を受けた。

地域資源である希少な横輪桜の植栽や、横

輪町の中山間地域にあり、町民は九十七人で、そのうち四割が六十五歳以上。過疎化と高齢化が進む中、「何とかしたい」と二〇〇六年六月、町民が活性化委員会を設立。同年十一月オープン

の地場産品直売所「郷の恵「風輪」」を拠点に、町民全員が会

員となって活動に励んだ。地域資源である希少な横輪桜の植栽や、横

輪町の栽培、防風のため石垣を巡るマップの作製・ツアー開催、特産品の開発など観光資源につなげた。



東海農政局長賞を受けた横輪町活性化委員会の岡会長（左から2人目）ら一伊勢市役所で

町への来訪者数は、〇六年の二万七千人から〇九年には七万五千人に増加。経済的メリットだけでなく、横輪芋の増産により耕作放棄地の減少、自主的な環境整備による景観保全、高齢者の生きがいにもなった。

委員会の岡惣松会長（左から三人は二十五日、市役所を訪れ、鈴木健一市長に受賞を報告した。岡会長は「受賞を契機に再度活性化のための話し合いをして、今以上に頑張りたい」と意気込んでいた。